

◎第十一回総会記事

本会の才十一回昭和四五年年度総会は、諸般の事情でおくれていたが、昭和四六年五月九日（日）午前十時から弘前大学人文学部会議室で開催された。

総会は荒井委員が議長となりて進められ、前総会（昭四五・一・三一）以後の会務報告（蛸名委員）、会計監査報告（工藤守夫監事）、会計報告（月尾委員）が行なわれて異議なく承認された。

役員については現役員再任の声が出て、そのまゝ了承されたが、青森・八戸地区からも連絡や機関誌編集協力の意味で送出しにらどうかの意見があり、座任は会長ほか事務当局に一任された。従つてこれまでの諒解事項の一つであった「委員は弘前市内在住者より選出」の項は削除されたことになる。

議事が終つて、宮崎会長が挨拶を述べ、外面的な事業よりは、今のところ内を充実させ、より研究活動を活発にしなければならぬことが強調された。そして年二回機関誌の機関誌発行でなく、より回数をふやして低迷から脱却するよう要望された。

そのあと、四五年九月末に満一年の在外研究を終えて帰国された虎尾副会長が、留学中に見聞したことを中心にほぼ一時間余にわたつてお話された。研究テーマは「日英兩國における大陸文化受容の比較研究」で、主にイギリスに滞在、ローマン・ブリテンの研究や敦煌文書を調

査されたほか、史蹟・博物館など出来るだけ多く訪ねて見聞を広められたこと、またモスコで開かれた国際歴史学会にも出席して、歴史学者の国際交流を体験したこと、その他、イギリス絶望等の見聞（肉票にも立会われた）とか、イギリス人の具体的な生活や物の考え方など興味深い事例をお話になつた。

以上で午前の部を終え、昼食懇談に入つた。青森市からの出席もあつて、出席者全員（約二十名）近況報告が主で自己紹介を行なつた。席上、原が目下用館準備中の郷土館をめぐつて話題が展開された。

午後は宮崎会長の著書『青森県の歴史』（山川出版社、歴史シリーズ）について合評会、午後三時半過ぎ散会。

★弘前大学歴史研究会役員（委員五十名順）

会長 宮崎直生（人文学部）

副会長 羽賀与七郎（教養部） 虎尾俊哉（教育学部）

委員 荒井清明（弘中央高） 石谷正司（弘中央高）

稲葉克夫（弘南郷分校） 井上 久（弘南郷分校）

蛸名庸一（金木高） 菊地修一（弘工業高）

工藤守夫（船沢中） 黒澤二郎（弘中央高）

小館辰三（弘前聖高） 佐藤 仁（弘前南高）

青藤春彦（弘前三中） 月足正朗（弘大付中）

橋本正信（弘大付中） 藤野道主（人文学部）

村越 実（教育学部）

監事 大川哲夫（水産高） 千葉良一（金木南中）